

伊豫に於ける今夏の藻類研究二題

八木 繁 一

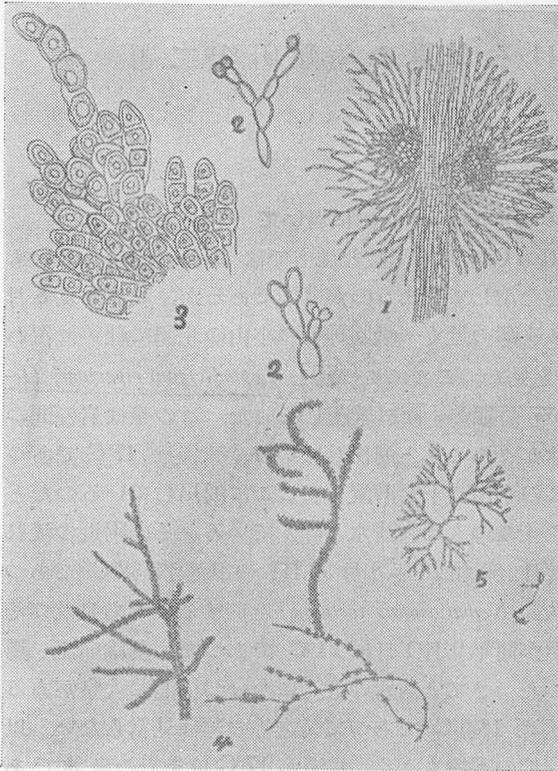
A. 伊豫に於ける夏季の *Batrachospermum* に就いて

本縣の様に年平均気温 15.5°C もある温暖な地方では *Batrachospermum* はも早5月にもなると殆んど姿を消してしまうのが普通であるが、私は今夏8月喜多郡栗津村一豫讃線八多喜驛の近く一祇園神社の小山の北側に社叢に覆われた 4m^2 位の泉のあるのを見た。ここにこの藻と *Leptodictyum riparium*, *Heteroscyphus* sp. *Nitella expansa* の類が一面に繁茂していた。この泉は岩の間の二箇所から極めて冷い清水がこんこんと湧出している。水温は 17°C であつた。この泉は脰川の水がこの小山の下を潜流してここに湧出しているのだとのことである。又この泉を土地の人は大清水と呼んでいる。その附近の流れ川の水温は 27.5°C で、當日(昭和28年8月30日)の気温が 32°C であつた。かの温泉郡川上村吉久の *Nemalionopsis tortuosa* を産するおきち泉及びそこから流れ出る小川の水温が同年9月1日に 21°C であつた。勿論前記二属の藻は全然認められなかつた。さて大清水の近くに今一つ樹間に大泉があるのでこれを調べたが、水温は 18.5°C であつて又之等の藻は見當らない。以上の様なことからこの藻は他の環境もよく、水温が 17°C 位までの泉水であつたら、南國伊豫に於ても年間を通じて枯死することなく生活出来るものと考えられる。兎に角永年伊豫の泉の藻を観察している私には初めての事實であつた。

この *Batrachospermum* は高さ $10\sim 15\text{cm}$ 内外で紫紅色で美しく、下方は輪生枝脱落して主軸は長く裸出している。上方輪生枝のある部分を観ると中軸に接近して囊果が二列にならんでいるが、勿論胞子は全然なく、中は空虚となつている。この囊



喜多郡栗津村八多喜の大清水



1. 輪生枝と囊果 ×55, 2. 精子器 ×300,
3. 發芽の狀 ×600, 4. 古き体の一部と若
き枝條 ×2, 5. 輪生枝 ×55.

果の太さは 0.16×0.19 mm で殆んど球形である。柄は短く長さ 0.1 mm 内外である。又輪生枝の尖端には雄性細胞の放出された精子器が残っている。この様なことから私はこの藻を *B. virgatum* と考えたのである。尙古き体の一部より若々しい枝條と思われるものが新しく伸長しているのを認めるが、然しこれがこの冬どうなるかは注意して観察したいと思つている。又泉中の小石その他の物に附着した胞子は既に發芽して、發育は相當に進んで居た。

B. 伊豫の綠藻に次の3種を新しく加える

昭和28年8月25日, 26日, 27日と3日間伊豫南宇和郡内海村由良半島の海藻採集を行つて約60種を得たが、その内次の綠藻3種は伊豫の海にて、はじめて得たものであつた。

1. *Caulerpa Webbiana* f. *tomentella* WEBER v. BOSSE コケイワヅタ
2. *Caulerpa racemosa* var. *laete-virens* WEBER v. BOSSE スリコギヅタ
3. *Caulerpa peltata* var. *typica* WEBER v. BOSSE タカツキヅタ

(松山市北高等學校)